

学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 実践記録

研究主題

「自ら課題を見つけ、主体的・協働的に学ぼうとする児童の育成 ～図書館・NIE活動を通して～」

四万十町立東又小学校

実践概要：

単元で付けたい力を明確にし、図書館資料やNIE活動を活かした言語活動の充実を図ることで、主体的・協働的に学ぼうとする児童の育成を目指し、研究を進めてきた。単元構造図や学習計画表でゴールイメージを児童と共有しながら授業を行うことで、付けたい力を目指し、学びを積み重ねることができた。「音読劇」「ブックレット」など言語活動の幅も広がり、学習の成果物で他学年や他校の児童、地域の保育所や託老所などと交流することで、さらなる意欲の高まりも感じられた。

キーワード： 言語活動の充実、図書館資料の活用、単元構造図・学習計画表

1. 研究仮説

学校図書館における「学習センター」や「読書センター」「情報センター」の機能の充実を図り、国語科を中心に、学校図書館の活用やNIE活動を通して、児童の言語能力及び情報活用能力を育成する授業の研究・実践を行うことで読む力の育成が図れるのではないかと考える。

また、教科カリキュラムと連動させ、各教科や総合的な学習の時間の中に学校図書館の活用を計画的に位置付け、継続して活用することで言語能力及び情報活用能力のさらなる向上が図れるのではないかと考える。

2. 実践方法

- 「読むこと」の指導の充実を目指し学校図書館を活用した国語科を中心とする授業研究
 - 国語科の授業研究（年間6回以上）
 - 講師招聘による学習指導要領に基づいた主体的・対話的で深い学びの授業モデルの研究
 - 単元構造図を活用し見通しをもった単元づくり
 - 先進校視察や研究会へ参加し、学んだことを全体で共有
 - 全国学力・学習状況調査結果及び高知県学力定着状況調査の結果分析と、指導の重点化の検討
- 図書館資料・新聞等を活用した授業研究
 - 図書館資料、新聞等を活用した授業の研究と実践
 - 国語辞典、百科事典の活用指導
 - 先進校視察や研究会へ参加し、学んだことを全体で共有
- 生活科・総合的な学習の時間との関連を図ったカリキュラム・マネジメントの推進
 - 生活科・総合的な学習の時間の学校図書館の活用や新聞づくり
 - 教科等横断的なカリキュラムの実践と共有
 - スタートカリキュラムの活用
- 学校図書館教育計画の見直し・実践
 - 読書指導の充実
 - 学年到達目標冊数の達成
 - 学校図書館教育計画の見直し・実践
 - 新聞感想文コンクール、読書感想文コンクール、学校新聞づくりコンクール等への取組

3. 実践内容

- 「読むこと」の指導の充実を目指し学校図書館を活用した国語科を中心とする授業研究
 - 国語科の授業研究（年間6回以上）
 - 年間6回以上の授業研究を計画に沿って実施することができた。単元で付けたい力を明確にし、達成に向けて、適切な言語活動の検討や教材研究の場を設定し、中部教育事務所の指導主事に指導や助言してもらいながら研究を推進した。授業は公開とし、校外からの参観者も多かった。1月末の研究発表会では、3学年が公開授業を実施した。読解を音読劇につなげたり、科学読み物や同じ作者のシリーズ本を読み、自分の考えをまとめたり、深めたりする授業を提案した。
 - 講師招聘による学習指導要領に基づいた主体的・対話的で深い学びの授業モデルの研究
中部教育事務所の指導主事を講師に、新学習指導要領に基づいた取組の具体について学習を重ねた。学んだことは、日々の授業で積極的に取り入れ、学期末の校内研修で報告・共有し合った。
 - 単元構造図を活用し見通しをもった単元づくり
授業者は、単元のゴールや学校図書館・NIEとの関連などを一枚にまとめた単元構造図で単元全体を見通し、必要に応じて修正を加えながら活用した。帯タイムとのつながりも明記し、教科学習だけでなく、より広い視野に立ち単元を組み立てることに取り組んだ。
学習計画表の中に、単元のゴールを位置付け、そのゴールを目指して取り組ませることで「何のために学ぶのか」「この時間の学びがゴールにどう結び付くのか」を意識させながら学習を進めてきた。学習計画表は教室に掲示し、児童と共有・確認しながら活用した。既習や本時の学習内容を表に書き込むことで、学習の足跡の役割も果たした。

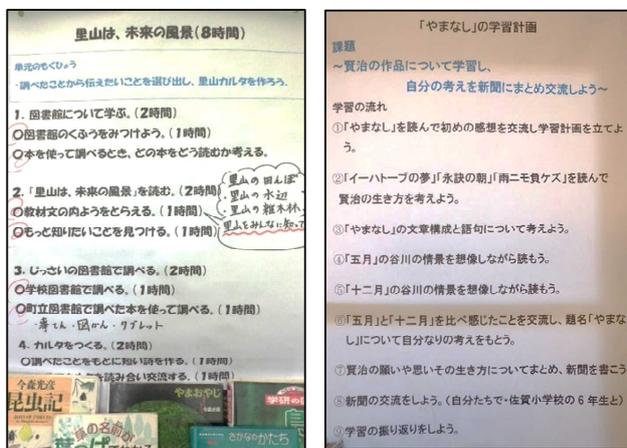


写真1：学習計画表 左：3年生 右：6年生

- 先進校視察や研究会へ参加し、学んだことを全体で共有

筑波大学附属小学校や香川大学教育学部附属高松小学校、兵庫県たつの市立新宮小学校の授業参観などに全教員が参加し先進的な実践に学ぶ機会をもつことができた。学んだことは、校内研修で報告し合った。

- 全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査の結果分析と指導の重点化の検討

各種調査結果の採点や問題・誤答分析は、全教員で行い、本校児童の傾向や重点的な指導が求められる観点を共有し、全校で基礎学力の向上・定着を目指して下記のように取り組んだ。

漢字や計算などの基礎学習を、朝学習や昼の帯タイムに設定し、継続して取り組んだ。帯タイムでは、週2回NIEタイムを取り入れ、はがき新聞や投稿記事スクラップやワークシートなど、児童の興味や発達段階に応じて、内容を考え実施した。NIEタイムの実践は、毎学期の校内研究で報告の場をもち共有した。

昨年度、児童から「辞書引き大会をしたい」と要望があり、本年度は、月1回の大会を行った。隣接学年や全校で集まり辞書を引く体験はいい刺激になった。

放課後や長期休業中には加力指導を行った。算数科を中心に、2年生の内容にさかのぼり、躓いている個所を児童自身が知り、躓きを補てんしながら個々の学力の向上を目指すことをめあてとして取り組んだ。この取組には、地域の方も丸付けに協力してくださり、児童に温かく声をかけながら接してくださった。

個人カルテを作成し、学年到達目標に向けた一人一人の状況を確認しながら地道に取り組むことで、基礎学力の向上を目指した。



写真2：放課後加力の様子

2. 図書館資料・新聞等を活用した授業研究

- 図書館資料、新聞等を活用した授業の研究と実践
- 国語辞典、百科事典の活用指導

まず、全学年で、図書の分類や配架の仕組み、国語辞典や百科事典の使い方や調べ方を学習し、自力解決ができるようにした。図書を活用することで課題を解決したという実感を得て、児童自身が図書の活用の有用性を感じることができた。また、各教科等を通して図書を活用した調べ学習を継続的にしていくことでタブレットに頼りがちだった情報収集が、実践後は百科事典や関連図書資料から必要な情報をスムーズに得る姿が見られるようになった。

さらに、国語辞典を一人に1冊持たせ、1年生で使い方の指導を行った。ロッカーに置いて漢字を正しく書く際など日常的に利用する機会を設けた。



写真3：図書館活用指導（1年生）

単元で付けた力を明確にし、学ぶ過程で、その力の習得に向け、効果的な言語活動を考え、実践した結果、「比べ読み」や「リーフレット」「ブックレット」「カルタ」「音読劇」など言語活動の幅が広がった。学習の成果物で交流することをゴールに設定することで、相手意識をもちながら学習することができた。学習後は、成果物を教室前の廊下やホール、学校図書館などに展示し、他学年や保護者など多くの人に見てもらった。5年生は、本の紹介リーフレットを町立図書館に展示してもらうことをゴールに単元学習を展開した。町内の人に自分のおすすめの本を手にとってもらうために、キャッチコピーや引用の仕方を教科書教材で学び、自分の本の紹介に活かすこともできた。



写真4：町立図書館に展示（5年生）

授業づくり講座で得た情報を新たな試みとして取り入れた。教科書教材と発展教材を入れ子式に展開していくことで意欲を持続させながら学習を進められた。

並行読書で共通の本を読む実践も行った。本を読んだ児童は、休み時間に自分の感想を伝え合い本を介した対話が生まれていた。それを聞いた児童が、本を手取るきっかけにもなり読書への興味や幅が広がった。また、並行読書として教室に準備した本から単元の必読図書を決めた。全員が読むことで情報を共有し、共通の土台に立ち学習を展開できた。その中で、考えやアドバイスなどが交流でき、協働的に学ぼうとする児童の姿に迫ることができた。

写真5：単元必読図書の一覧表（2年生）

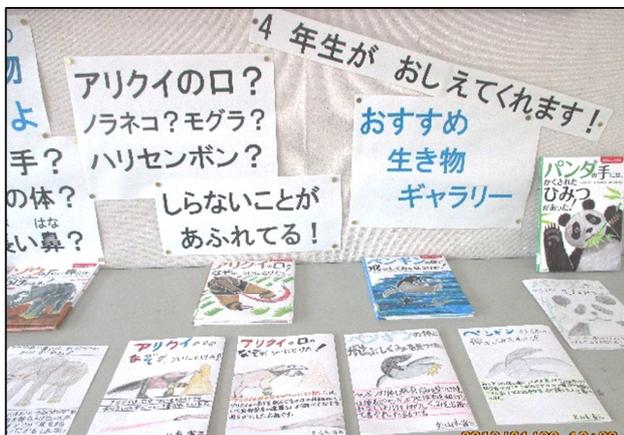


写真6：「おすすめ生き物ギャラリー」展示（4年生）

3. 生活科・総合的な学習の時間との関連を図ったカリキュラム・マネジメントの推進

- 教科等横断的なカリキュラムの実践と共有

教科カリキュラムに「図書館活用」「NIE」の枠を設け、教科等を横断的につなげた年間計画を作成した。国語科以外でも、学校図書館やNIEの活用を組み込んだり、教科同士を関連させたりして、横断的・長期的な学びの視野に立ち、1年間を見通した指導を心掛けた。また、実践内容の具体や進捗状況を確認し合いながら、次学期の計画に修正を加えて取り組んだ。総合的な学習の時間では、国語科で学習した文章構成を意識して書いたり、算数科で学んだことを活かして樹高を

測ったりと、教科で付けた力を使った学習を展開することができた。児童も、学んだことをつなげて活かした実感を持ち、学びの必然性の高まりが感じられた。

学校行事とNIEを結び、学校行事後にはがき新聞を書き、振り返りやお世話になった方へのお礼の手紙として活用した。はがき新聞を受け取った地域の方から返信をいただくこともあり、コミュニケーションを深めることにも役立った。

町立図書館への図書貸し出し依頼も年間計画に沿って計画的に行い、学習環境を整えることができた。関連図書を複数冊準備することで、読み比べや児童一人一人の興味・関心に対応することができた。単元学習の導入で町立図書館を訪れたり、学習の成果物を展示してもらったりと、本の貸し借りだけにとどまらない交流ができた。

4. 学校図書館教育計画の見直し・実践

- 読書指導の充実

毎日の家庭学習に10分間読書を組み込み、読書習慣の定着を図った。年3回の強化月間を設け、図書委員会が中心になり、1か月続けて読んだ児童には、表彰状を渡すことで意欲付けを図った。

- 学年到達目標冊数の達成

年間の読書到達目標を、低・中・高学年で決め、到達を目指し取り組んだ。読書ファイルには借りた本のタイトルと冊数を記入させ、学期ごとに進捗状況を確認し、冊数が伸びない児童には声をかけ、促すようにした。

- 学校図書館教育計画の見直し・実践

昨年度の実践も参考にしながら、年度当初に、年間計画の見直しを行った。実践内容など記録を残しながら、次年度へつながるよう配慮した。

- 新聞感想文コンクール、読書感想文コンクール

学校新聞づくりコンクール等への取組
各種コンクールへの出品も教科カリキュラムに沿って計画的に進めた。生活科や総合的な学習の時間で体験したことを中心に、全学年で新聞づくりに取り組んだ。学年内だけでなく、ブロックでアドバイスをし合ってより良い作品に仕上げようとする姿が見られた。その結果、本年度の学校新聞づくりコンクールにおいて、特選1点、入選1点が選ばれた。

できた作品は、地域に配布したり、学校行事で掲示したり、多くの人に見てもらう機会をもった。



写真7：体育館壁面に展示した各学年の新聞

4. 成果と課題（成果○・課題●）

学校図書館における「学習センター」や「読書センター」「情報センター」の機能の充実を図る。

- 図書館資料活用の学習を実施したり、各教科等の調べ学習で、図書館資料を継続して活用したり「学習センター」としての役割を果たすことができた。児童も、自力で解決できた体験を重ねることで、図書館資料を積極的に活用するようになってきた。
- 図書委員会と連携し、「読書センター」としての機能も果たすことができたが、選ぶ本の内容が児童の実態に合っているか課題が残った。

国語科を中心に、学校図書館の活用やN I E活動を通して、児童の言語能力及び情報活用能力を育成する授業の研究・実践を行うことで読む力の育成を図る。

- 本年度の全国学力・学習状況調査の結果、国語科では、全国平均を10ポイント以上上回った。「目的に応じて、本や文章全体を概観して読む」「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」ことを出題の趣旨とした問題では、特に、正答率が高かった。目的に応じた情報収集や伝える相手を意識した発信の仕方などの学習が力になっている。経年で見ると、「書く」「読む」どちらの力も大きく向上している。単元で付けた力を明確に捉え、学校図書館やN I E活動を効果的に言語活動に取り入れ、習得を重ねてきたことが結果につながったと考えられる。
- 標準学力調査の結果、国語科の平均得点率は全国平均以上であったが、「読むこと」の領域では、2学年が平均を下回った。説明的な文章を読むことに課題が見られた。
- （児童用）の質問項目（7）「図書館の本や新聞を使用して学習を行うことができた」についても3.6ポイントと肯定的評価が高かった。これは、授業者が、学習する単元において効果的な図書館資料や新聞の活用を常に意識して実践していることの表れであると捉えられる。また、教科のカリキュラム内容を意識し、他教科等においても学校図書館や新聞を計画的に活用していることも大きく影響している。そのことは、児童にも浸透し、教科書だけでなく、図書館資料も学習に活かすスタイルが定着してきた。
- 到達目標の授業力チェックシートの「教材研究」「授業構成」の到達目標平均3以上が到達できた。
- 「読み」を鍛えるためには、今後、文章に立ち返ることを大切にしたい。考えの根拠を文章に求めたり、人物の心情を文章を基に考えたりする活動の充実を図ることで、さらなる読解力の向上を期待したい。
- 国語科のゴールを「書くこと」に結び付けることが多かった。書くために、構造や表記の工夫などを読み取り、自分の成果物につなげる展開になりやすく、活動がマンネリしてしまうこと

があった。言語活動の内容を再考する必要がある。

教科カリキュラムと連動させ、各教科や総合的な学習の時間の中に学校図書館の活用を計画的に位置付け、継続して活用することで言語能力及び情報活用能力のさらなる向上を図る。

- 教科カリキュラムを活用することで、各教科等と学校図書館・N I E活用を効果的に結び付けることができた。

【学校図書館と読書についてのアンケート】
児童の感想より

2018年度

- ・本を読むのが速くなった。
- ・コンピュータや本で知らないことが分かった。



2019年度

- ・図鑑や辞書など使って家でも学校でも調べるようになった。
- ・分からないことはあきらめずに調べようと思えるようになった。

児童の感想を比べると、内容の質的向上が見られる。学校図書館を活用し、学習の仕方を身に付け、自主的に学ぶ体験を重ねることで、学びに向かう意欲的な姿が見られるようになってきた。

今後も、より主体的・協働的に学ぼうとする児童の育成を目指し、研究を進めていきたい。